

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

「PPK（ピンピンコロリ）」

慈光照護のもと、門信徒の皆様には愈々清祥にお念仏ご相続のことと存じます。

お彼岸を過ぎて一気に涼しくなってきました。また私の嫌いな冬が来るかと思うと悲しくなります。しかし、『生』について、四季のある日本に生まれたことは自分では選びようもなかったことです。お寺に生まれたこともそうです。お釈迦さまは『生老病死』の四苦を教えてくださいました。どれ一つとっても自分では思い通りにならないことです。思い通りにならないことを『苦』と言うのです。あれこれ不平不満をいうのではなく、そのまま受け止めて生きたいものだと思ふのですが、やはり「寒いのは嫌」とあちこちでぼやいてしまいます。

『死』についても同じでしょう。生きています限り健康で人生をなるべく長く楽しめ、死ぬ時はコロリと死んでいきたい。ほとんどの方はそう願っているのではないのでしょうか。しかし、これまた思い通りになりません。

報恩講にお参りください。10月

16日（金）昼二時・夜七時 17日（土）朝十時

これはある先生からお聴きしたお話ですが、石川県の小松のある老人会が、大阪で松竹新喜劇を観るといふ旅行を企画して、直接行くと早く着いてしまうので、奈良県斑鳩町の吉田寺に寄ってから行くという計画を立てました。みなさんは吉田寺を知っていますか？『よしだでら』ではなく『きちでんじ』と言います。浄土宗のお寺なのですが、一般的には『ぼつくり寺』として有名です。七高僧の第六祖『源信僧都』が開基されたのですが、なんでも源信さまのお母様が亡くなられたときにお念仏を称えたらぼつくり安らかに亡くなられたということで、以来ぼつくり寺として信仰されているとのこと。ぼつくり逝くように祈禱していただくのは1回5千円だそうです。もつと効くように3日間の別祈禱なら1万円、1週間の特別祈禱なら2万円だそうです。下の世話にならないようにと、新しい下着を持ってお参りするそうですよ。

話を戻しますが、小松の老人会が吉田寺で解散したのですが、バスの出発の時間になっても戻らない方がいらっしやっただけです。

早くしないと松竹新喜劇の開演時刻に間に合わないと皆で探したら、大きな木の根元に座っていらっしやっただけです。寝てるのかと思つて肩を揺すつたら、そのまま倒れ込んでしまわれました。心不全か何かだったのでしよう。所謂『突然死』というやつですね。ぼつくり寺にお参りしたおかげで、即刻ご利益があったわけですね。そんなこんなで旅行は台無しになってしまいました。その後、その老人会では「二度とぼつくり寺には行かない」とみんなが言っているそうです。死ぬ直前まで元気でいたい、ピンピンコロリが理想ではありますが、『今』死ぬのは嫌なわけです。勝手なもんだと思いますが、じゃあ自分がと考えると、『今』は困ります。『来年』も困ります。じゃあいつならいいのかわからないと、期限を切られると困るんですね。私たちはどこまでも凡夫であることを知らされるお話でした。思い通りにならないことがかえって良いのかもしれない。

なお、私たち浄土真宗では祈願・祈禱などはいたしません。お守りやお札もありません。あてにならないものは頼りにしないの

です。私たちが依りどころにする究極の真実こそが阿弥陀仏であり、摂取して必ず捨てないという阿弥陀仏の本願念仏です。南無阿弥陀仏の六字にすべてが込められて私のもとにすでに届いています。思い通りにならないままに私はずっと前から願われていたのです。

「報恩講が厳修されます」

日	10時〜	14時〜	19時〜
16日 (金)		大速夜 報恩講作法 法話二席	初夜 十二礼 御伝鈔拜読 法話一席
日	10時〜	11時〜	
17日 (土)	ご満座 阿弥陀経作法	人形劇 おじいとお ばあと、きつ ねのコン太	

福井市教應寺住職

本願寺布教使

ご法話 奥田 順誓師です。

※例年十六日の大速夜おおたいうやの法座のあとにお齋しき(炊き込みご飯類)をお分けしております。今年も準備する予定ですので、共々に頂戴したいと思います。

本山から送ってもらった(今回も無料で)報恩講のリーフレットを同封しました。ぜひ

ひ一度お目を通していただいて、報恩講のことを知っていただきたいと思えます。

なお、お手伝いくださる方は寺までご連絡いただければたいへん有り難いです。事前の準備などの手助けもしてくださる方、絶賛募集中です。

「ご満座後に人形劇初開催！」

この春、私が劇団に所属していたときになんとか共演させていただいた西村朋明さんのお母様が亡くなられ、ご法縁をいただいて葬儀を勤めさせていただきました。彼は奥様と人形劇の劇団『とぴア』を主宰しておられます。今年には報恩講のご満座が土曜日となるため、ご門徒のみなさま、子供さん、お孫さんとたくさんお参りしていただけるよう人形劇を企画いたしました。チラシを同封いたしましたので、ぜひご家族ご近所お誘い合わせの上お参りください。なお、このためにご満座の法話はありません。私が短いお話をさせていただいてから始めたいと思います。法話も演劇も同じですが、舞台(法座)はお客さま(お参りの方)と一緒に作り上げてゆくものだと思います。長いこと芝居をやつてきて思ったのは、どんなに舞台経験豊富な役者さんでも、照明も音響も衣装も化粧もすべて本番通りに行うゲネプロ(本番直前に行う総稽古)と本番とはやはりぜんぜん

違います。ですからみなさん、ぜひ一緒に舞台を作り上げましょう。心よりお待ちしております。

「前門さまの著作プレゼント」

このたび本願寺の前門ぜんもんさまが『人生は価値ある一瞬ひとしげ』という本を出版なさいました。この本を10冊、お寺のお金で購入しました。読者の方に抽選でプレゼントしたいと思えます。応募方法はいろいろ考えたのですが、はがき、電話、メール、SMS、お参りのときに直接、なんでもいいので『前門さまの本希望』の旨を私にお知らせください。応募者多数の場合は、厳正な抽選をして発送させていただきます。当選者の方のお名前は次号で発表する……かもしれない。締め切りは今年14日まで(必着)とさせていただきます。ふるつてご応募ください。

※来寺のお約束や、お参りの変更など、重要なことは必ず私の携帯にお電話下さい。出なければ留守電に入れてください。こちらからご連絡いたします。

電話番号 090-8967-7902
メールアドレス

soichiro4989@gmail.com